



ZENFUREN

2013年10月4・5日

号外

全国国立大学附属学校連盟
全国国立大学附属学校 PTA 連合会
〒105-0001 港区虎ノ門 1-2-29
虎ノ門産業ビル 8F
TEL : 03-3591-2091
FAX : 03-3591-2092

全附P連PTA研修会 第4回全国大会

テーマ別分科会-1

個性を認め、共生できる教育へ

分科会1では、「子供の個性を認め、共生できる教育をめざして」を演題として、特別支援学校の保護者でいらっしゃる岡部さん、宮崎さん、石川さんに、ご家庭での子育ての経験を踏まえながらのお話をうかがいました。



パネリスト右より

| | |
|----------|---------|
| 全附P連 元会長 | 岡部太郎さん |
| 元副会長 | 宮崎弘美さん |
| 理事 | 石川奈美子さん |

パート1では、「個性を認める」ことについてお話いただきました。「個性を認める」とは、子どもの心の発達段階を正しく理解しながら個性に向き合い、個性を育むことにより、子どもの自己肯定感(ありのままの自分を価値があると思えること。弱い部分も含めて自分を大切にしようとする気持ちや、自分で何か出来る・やってみようという内発的な思いを抱くようになる)を養っていくことです。相反する不安・不信心と安心・信頼感は年齢に応じてその内容が変化し、そのお互いの量は、周りの状況で絶えず増えたり減ったりして、子どもの感情は常に揺れ動いています。子育てとは、毎日子どもを見つめ、こころを認めてあげ、子どもの安心・信頼感の部分を広げてあげるということを学びました。

パート2では、「コミュニケーションの役割」についてお話いただきました。子どもの話を正確に聴き取り(気持ちを受け止め、否定せず)、それから自分の考え方・思いを伝えて、最終的にどうするかは子どもに任せることが大切であること、時には、言葉で伝えるのではなく、自らの行動で示すことも必要である(その大切さを、喋るのが不自由なご長男が教えてくれたという宮崎さんのお話が印

象的でした) ことをお話いただきました。

パート3では、「共生できる教育の基盤とは」がテーマでした。共生とは、障害の有無に関わらず、地域の中で認められて生活していくことであり、その為にはみんなが、障害を持つ人達とも積極的に関わり、浅くても良いから理解を持つことが大切であることをお話いただきました。インクルーシブ教育(障害の有無にかかわらず、一人一人の特性に合わせた教育の場を提供し、共に学ぶこと)の実践においては、特別支援学校に対して、「何でもいいので一緒にやろう(ソフトボール大会 etc.)」と声かけして欲しい、接する機会を増やしていくことでお互いに親近感をもてるようになることがまず大事であることをお話いただきました。私自身、今春、特別支援学校の入学式に出席させていただいた時、在校の子どもの新入生への優しい心配りに触れ、大変感動・感涙致しました。交流の回数を増やそうという話は現在進行中ですが、今日のお話を聴き、必ず早期に実現させようと思いました。

ここでは掲載しきれませんが、パネラーの皆様方には、それぞれご自身の経験談をたくさん語っていただきました。「何気ない日頃のやりとりが子どもにとってエネルギー源になっていること」や、「親の一生懸命さが時には失敗があったとしても子どもに対しては良い姿勢をみせてあげていることになっていると思う」など共感するお話や、「健常者にはない純粋さ、優しさに自分が癒されることもある」といった心温まるお話を聴くことができ、大変有意義な分科会となりました。



岡山大学教育学部附属小学校 PTA
会長 榎本健太郎 取材